

～地域が抱える様々な行政課題への対応例～

○高齢者を交えた三世代交流（福島県須賀川市）

須賀川市中央公民館では、60歳以上の地域住民を対象にした「読み書き計算学校」が須賀川市立須賀川第一小学校、第二小学校で開催された。

週1回、小学校の空き教室に来て、簡単な読み書き計算をする講座で、児童の父母に学習サポーターとして協力いただいている。学習活動後は、学習サポーターを交え児童と昔遊びや昔話などで三世代交流を行う。交流活動後、近所に住む児童と一緒に下校することで安全を見守っている。



○大学との連携講座（兵庫県三木市）

三木市中央公民館では、兵庫教育大学地域交流推進センターと連携して、夏休み中の3日間、「夏休み親子科学ものづくり教室」が開催された。

本公民館と兵庫教育大学が連携する試みは初めてであり、本講座は、小学校低学年の段階から、ものを作る楽しさや過程の楽しさを体験し、青少年の理科離れをなくそうと、企画された講座である。



○高等学校との連携講座（岡山県瀬戸内市）

瀬戸内市邑久町公民館では、県立邑久高等学校と連携教育に関する「こうこうネットワーク事業」の覚書を交わし、学校教育と社会教育の垣根を越えた教育活動が行われた。

本事業は、公民館が主催するボランティア養成講座やボランティア事業に地域住民とともに、高校生ボランティアが参加し、公民館では、高校生の行うボランティア活動に対して、単位認定の支援が行われている。



○家庭看護法介助員養成講習（大分県大分市）

大分市川添公民館では、老年期を健やかに過ごすため必要な知識を身に付けさせることを目的に日本赤十字社大分県支部の協力を得て、「家庭看護法介助員養成講習」が実施された。

本講座は、全4回で構成され、食事の介助や車椅子での移動方法などについて学習し、講座修了後には検定試験が行われ、合格者には赤十字家庭看護法介助員に認定されている。

